



# えんじゅ

春日市立春日小学校  
校長室便り No.21  
令和4年3月7日  
文責：校長 福島

## 感じ合う・響き合う・繋がり合う



先週は、緊急に3日間の臨時休業という措置を取らせていただきました。ご理解と迅速な対応をしていただきありがとうございました。そんな中おやじの会には4年生のキャリア教育を、オンラインで家庭とつなぐという形で行っていただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。

コロナ禍になって2年になりますが「学校って何だろう」ということを時々考えます。そこで行き着く1つの答えが、「集団で学び合い、生きていく力を培うところ」です。

今日、再延期していたお別れ集会を行いました。当初、3月1日に行う予定でした。この日は6年1組の学級閉鎖が決まっていたので、全員がそろわないことを想定してビデオレター形式のオンライン配信をする形で準備を進めてきたので、私は前日まで1日にやろうと思っていました。

前日に主幹教諭の鬼塚先生が6年生の教室に指導に入っていました。教室から降りてきた鬼塚先生が校長室に来て私にこんな話をしました。「校長先生、お別れ集会延期できませんか。今日6年生と過ごして、みんなで一緒に画面を見ながら気持ちを共有することが必要だと感じたんです。卒業に向けてその一体感を持たせてあげたい！ お願いします。」… 決めました。

今日、私は6年生と一緒に教室でお別れ集会に参加しました。各学年からの心のこもったメッセージに、教室はあたたかい笑いあり、涙あり、しっかり気持ちは届いていました。

.....

6年生の名前を一人一人呼んで手を振るメッセージがありました。名前を呼ばれた6年生は画面に向かって手を振って応えていました。

集会が始まって遅れて登校してきた子がいました。声を出せないで友達が手を振って迎えていました。(間に合ってよかったね。まだ始まったばかりだよ。) 心の声が表情から伝わります。机に置いてあった1年生が作ったプレゼントのペンダントを友達が首にかけてあげていました。

時々感極まる場面もありました。顔を覆って感情を抑える友達を、近くの友達が肩をたたいて無言で共感していました。

.....

コロナ禍にあって、今日も様々な理由で登校できていない子もいます。同じ空間にはいませんが、気持ちが繋がっていたらうれしいです。